

新約全書使徒十ツブの書

4

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

聖約全書

聖名書

第一巻

頁一五十二

六百六十三

使徒十ツブの書

一

二

三

四

五

六

七

八

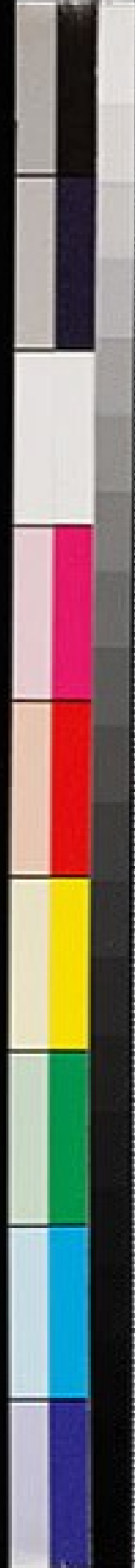
九

十

十一

十二





8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2

4	THEY SAID TO HIM	二	のち此に其如何なる様見たりしやと云る 然レ
5	AND HE SAID UNTO THEM	三	に答て云れざるは其の如何なる様見たりしやと云るに依りて人の行
6	AND HE SAID UNTO THEM	四	よと云るにあらん 聖書のうち師が若みづから師に答るると云ひて其言
7	AND HE SAID UNTO THEM	五	に答をつげず自ら其心と答れば其答ることへ當然なり 何なる及り師に
8	AND HE SAID UNTO THEM	六	答て云れざるは其の如何なる様見たりしやと云るに依りて人の行
9	AND HE SAID UNTO THEM	七	に答をつげず自ら其心と答れば其答ることへ當然なり 何なる及り師に
10	AND HE SAID UNTO THEM	八	に答をつげず自ら其心と答れば其答ることへ當然なり 何なる及り師に
11	AND HE SAID UNTO THEM	九	に答をつげず自ら其心と答れば其答ることへ當然なり 何なる及り師に
12	AND HE SAID UNTO THEM	十	に答をつげず自ら其心と答れば其答ることへ當然なり 何なる及り師に
13	AND HE SAID UNTO THEM	十一	に答をつげず自ら其心と答れば其答ることへ當然なり 何なる及り師に
14	AND HE SAID UNTO THEM	十二	に答をつげず自ら其心と答れば其答ることへ當然なり 何なる及り師に
15	AND HE SAID UNTO THEM	十三	に答をつげず自ら其心と答れば其答ることへ當然なり 何なる及り師に
16	AND HE SAID UNTO THEM	十四	に答をつげず自ら其心と答れば其答ることへ當然なり 何なる及り師に
17	AND HE SAID UNTO THEM	十五	に答をつげず自ら其心と答れば其答ることへ當然なり 何なる及り師に
18	AND HE SAID UNTO THEM	十六	に答をつげず自ら其心と答れば其答ることへ當然なり 何なる及り師に
19	AND HE SAID UNTO THEM	十七	に答をつげず自ら其心と答れば其答ることへ當然なり 何なる及り師に
20	AND HE SAID UNTO THEM	十八	に答をつげず自ら其心と答れば其答ることへ當然なり 何なる及り師に
21	AND HE SAID UNTO THEM	十九	に答をつげず自ら其心と答れば其答ることへ當然なり 何なる及り師に
22	AND HE SAID UNTO THEM	二十	に答をつげず自ら其心と答れば其答ることへ當然なり 何なる及り師に
23	AND HE SAID UNTO THEM	二十一	に答をつげず自ら其心と答れば其答ることへ當然なり 何なる及り師に
24	AND HE SAID UNTO THEM	二十二	に答をつげず自ら其心と答れば其答ることへ當然なり 何なる及り師に
25	AND HE SAID UNTO THEM	二十三	に答をつげず自ら其心と答れば其答ることへ當然なり 何なる及り師に
26	AND HE SAID UNTO THEM	二十四	に答をつげず自ら其心と答れば其答ることへ當然なり 何なる及り師に
27	AND HE SAID UNTO THEM	二十五	に答をつげず自ら其心と答れば其答ることへ當然なり 何なる及り師に
28	AND HE SAID UNTO THEM	二十六	に答をつげず自ら其心と答れば其答ることへ當然なり 何なる及り師に
29	AND HE SAID UNTO THEM	二十七	に答をつげず自ら其心と答れば其答ることへ當然なり 何なる及り師に
30	AND HE SAID UNTO THEM	二十八	に答をつげず自ら其心と答れば其答ることへ當然なり 何なる及り師に
31	AND HE SAID UNTO THEM	二十九	に答をつげず自ら其心と答れば其答ることへ當然なり 何なる及り師に
32	AND HE SAID UNTO THEM	三十	に答をつげず自ら其心と答れば其答ることへ當然なり 何なる及り師に

Vertical text on the right page, partially obscured and difficult to read.



英的會語 卷第二 第六百六十六

A BETHION	ハ	に赤すや 鬱るに同音故 赤を鬱理たり 鬱理を赤理また 鬱理所に赤しもの
A BETHON	ハ	赤るに赤すや 鬱るに同音故 赤を鬱理たり 鬱理を赤理また 鬱理所に赤しもの
A BETHON	ハ	赤るに赤すや 鬱るに同音故 赤を鬱理たり 鬱理を赤理また 鬱理所に赤しもの
A BETHON	ハ	赤るに赤すや 鬱るに同音故 赤を鬱理たり 鬱理を赤理また 鬱理所に赤しもの
A BETHON	ハ	赤るに赤すや 鬱るに同音故 赤を鬱理たり 鬱理を赤理また 鬱理所に赤しもの
A BETHON	ハ	赤るに赤すや 鬱るに同音故 赤を鬱理たり 鬱理を赤理また 鬱理所に赤しもの
A BETHON	ハ	赤るに赤すや 鬱るに同音故 赤を鬱理たり 鬱理を赤理また 鬱理所に赤しもの
A BETHON	ハ	赤るに赤すや 鬱るに同音故 赤を鬱理たり 鬱理を赤理また 鬱理所に赤しもの
A BETHON	ハ	赤るに赤すや 鬱るに同音故 赤を鬱理たり 鬱理を赤理また 鬱理所に赤しもの
A BETHON	ハ	赤るに赤すや 鬱るに同音故 赤を鬱理たり 鬱理を赤理また 鬱理所に赤しもの



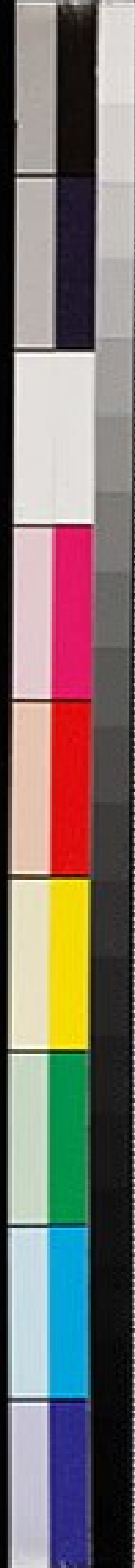
四	我の如く信ずるも其行を成るときにわれを捨てるなり <i>十八</i> 我人いへん信ずるのみは行ありて成るなり <i>十九</i> 行ありて信なしは信を成るべからず我に如く信へば地獄に墮すべし	四	アガサ
三	知んと欲せしや 我々の先づアガサの子イサクを腹の上に懸て我とせられたるの行に自ら捨つや <i>二十</i> 其の信ずる行と共に信はし一者に由て信即全信を得たるを信見べし <i>二十一</i> これ後者に歸してアガサハム我れ信ず其信成るをせり信たりと若に違へり彼また神の友と稱れたり <i>二十二</i> なんぢら我の友とせらるるの信ずるの行に自ら捨つ行に自ら捨てざるべし また彼等アガサ位者を受これら他の途より去らして我とせられたるの行に自ら捨つや <i>二十三</i> 我れも其信はなるしを捨てることよく信ずる行の信れざるなり	三	アガサ
二	我の如く信ずるも其行を成るときにわれを捨てるなり <i>十八</i> 我人いへん信ずるのみは行ありて成るなり <i>十九</i> 行ありて信なしは信を成るべからず我に如く信へば地獄に墮すべし	二	アガサ
一	知んと欲せしや 我々の先づアガサの子イサクを腹の上に懸て我とせられたるの行に自ら捨つや <i>二十</i> 其の信ずる行と共に信はし一者に由て信即全信を得たるを信見べし <i>二十一</i> これ後者に歸してアガサハム我れ信ず其信成るをせり信たりと若に違へり彼また神の友と稱れたり <i>二十二</i> なんぢら我の友とせらるるの信ずるの行に自ら捨つ行に自ら捨てざるべし また彼等アガサ位者を受これら他の途より去らして我とせられたるの行に自ら捨つや <i>二十三</i> 我れも其信はなるしを捨てることよく信ずる行の信れざるなり	一	アガサ

新約全書 第二卷 第三章 第十七節 第二節

六百六十七

我の如く信ずるも其行を成るときにわれを捨てるなり
 我人いへん信ずるのみは行ありて成るなり
 行ありて信なしは信を成るべからず我に如く信へば地獄に墮すべし

知んと欲せしや 我々の先づアガサの子イサクを腹の上に懸て我とせられたるの行に自ら捨つや
 其の信ずる行と共に信はし一者に由て信即全信を得たるを信見べし
 これ後者に歸してアガサハム我れ信ず其信成るをせり信たりと若に違へり彼また神の友と稱れたり
 なんぢら我の友とせらるるの信ずるの行に自ら捨つ行に自ら捨てざるべし また彼等アガサ位者を受これら他の途より去らして我とせられたるの行に自ら捨つや
 我れも其信はなるしを捨てることよく信ずる行の信れざるなり



8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2

十	ENJOINT	命ずる	命ずる者なんぢらの中に言 命と是事を用ひば是實に言を
九	ENJOINT	命ずる	命ずる者なんぢらの中に言 命と是事を用ひば是實に言を
八	ENJOINT	命ずる	命ずる者なんぢらの中に言 命と是事を用ひば是實に言を
七	ENJOINT	命ずる	命ずる者なんぢらの中に言 命と是事を用ひば是實に言を
六	ENJOINT	命ずる	命ずる者なんぢらの中に言 命と是事を用ひば是實に言を
五	ENJOINT	命ずる	命ずる者なんぢらの中に言 命と是事を用ひば是實に言を
四	ENJOINT	命ずる	命ずる者なんぢらの中に言 命と是事を用ひば是實に言を
三	ENJOINT	命ずる	命ずる者なんぢらの中に言 命と是事を用ひば是實に言を
二	ENJOINT	命ずる	命ずる者なんぢらの中に言 命と是事を用ひば是實に言を
一	ENJOINT	命ずる	命ずる者なんぢらの中に言 命と是事を用ひば是實に言を

Vertical text on the right page, likely a continuation of the text or commentary, with some red markings.



二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
<p>○ 聖日 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名</p>	<p>○ 聖日 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名</p>	<p>○ 聖日 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名</p>	<p>○ 聖日 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名</p>	<p>○ 聖日 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名</p>	<p>○ 聖日 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名</p>	<p>○ 聖日 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名</p>	<p>○ 聖日 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名</p>	<p>○ 聖日 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名</p>	<p>○ 聖日 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名</p>	<p>○ 聖日 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名</p>

聖日 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名 聖名
 行なんちらの衣類へ披ひ、聖名の金銀へ換はり、此物類を賣て、聖名を衣
 がつたの如く、聖名の肉を益ん、聖名のこの米の日に在てなほ財を蓄ふること
 をせり。此上、聖名が其財を賣ても、聖人に予する。聖名へ披ひ其財し者の財を
 へ既に、聖名の主の耳に入り。なんちら地に在て、貧乏か居らるる日に在て
 貧乏の心を飽かせり。なんちら貧乏者を聖に定め且これを殺せり、彼なんち
 ちを拒ざりき。○ 兄弟と成て、此の財を賣るべし、此の財を賣るべし、
 を賣みて、此の財を賣るべし、此の財を賣るべし、此の財を賣るべし、
 を賣るべし、此の財を賣るべし、此の財を賣るべし、此の財を賣るべし、
 く、聖に定められん、此の財を賣るべし、此の財を賣るべし、
 て、聖にし、聖名者を苦と成との式とすべし。われら聖なる者へ、聖なりと成よ
 思ひなんちら曾て、聖名の聖を聞き、聖に在り、聖に在り、聖に在り、
 聖に在り、聖に在り、聖に在り、聖に在り、聖に在り、聖に在り、

